

世界中でいま、人間と人工知能(AI)との分業が始まっている。弁護士は証拠探しをゆだね、ファンドマネジャーは助言を受けている。ただ、AIにすべては任せられない。いち早く導入した現場では、使う人間の力量が問われていた。

1100まで特定

「談合するために相手と会いましたよね」「いや、私はいっさい関わってない」

東京都の自動車部品メーカー。会議室で、ベーカー&マッケンジー法律事務所(東京・港)の井上明弁護士は、このメーカーの社員に問い詰めた。2015年のことだ。

米国の司法省が、1990年代半ばから2012年ごろまで他社と価格

命運握るコーチング

依存ならスキル低下

万件にする作業すら、40人がかり。しかも3カ月、1日12時間働きつめだった。「人海戦術は夜中まで続き、入院する弁護士もいた」

井上氏はAIを使って効率良く仕事をすすめる上で、人間の役割こそ欠かせないと語る。同法律事務所が使うA

Iは、証拠を絞っていく前に、探してほしい情報で覚えさせないと、AIを最初に学ばせる必要がある。それは経験豊富なパートナークラスの弁護士にしかできない。

「サブジェクトマター エキスパートと呼ぶ高いクオリティを持つ弁護士が、ほしい文書の探し出し方を学習させている」。しかも、AIが

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

「サブジェクトマター エキスパートと呼ぶ高いクオリティを持つ弁護士が、ほしい文書の探し出し方を学習させている」。しかも、AIが

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

カルテルの証拠探しを分業

コーチ役の井上明弁護士

AI

学習

推論

怪しい順に表示

分析担当のフロントテオ

経験の蓄積必要 企業がこれから使うAIのなかには、先輩が後輩に仕事のやり方を教えるように、人間によるコーチングが欠かせない場合がある。コーチングはAIの質を決め、AIの質はビジネスの行方を決める。コーチングの役割は熟練者にふさわしい。

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

「いまはたたき上げの経験者がいて、AIの教師役になれる。だけど落ちてきたアソシエーツがパートナーとなったとき、AIをコーチングでき、AIをコーチングできないかもしれない」

弁護士の下、談合の匂い察知

普通のメール

不正を示唆するメール

今日の夜、どうですか？

送信日時: 2014/07/07 (月) 15:00

宛先: ■■■さん

CC: ■■■さん

お疲れ様です。■■■です。

今日の夜、予定ありますか？

久々に飲みにも行けないかと思ひまして。駅前の居酒屋に8時くらいでどうですか？

今日の夜、どうですか？

送信日時: 2014/08/08 (金) 14:30

宛先: ■■■さん

CC: ■■■さん

お世話になってます。■■■の■■■です。

最近はいかがですか？

もし良ければ、今日にでも飲みに行きませんか？

前回から時間も経っていますし、またお話できればと思います。

いい個室の居酒屋を見つけたので、そこにしましょう。

■■■さんも誘った方がいいですかね。

AIは「個室の居酒屋」 「誘った方がいいですかね」といった言葉をとらえる

井上氏は国際カルテルの調査にかならずAIを使う。アソシエーツと呼ばれる若い弁護士たちが「会議室にこもってさかすより、証拠をばやく絞り込める」。

これをAIで100万件に絞る。弁護士4人が1日1時間、AIの選択を確かめていく。かかる時間は1カ月だ。100万点に減らしたあと、ほんの数点の確かな証拠を見つけるのは弁護士の仕事。だが、作業はかかなり楽になった。かつては1千万件を1億件に及ぶことがある。